

ももだより

H26.7 なかざわ幼稚園PTA

園長先生より

先日、お迎えに来たどうぶつ組のお母さんからこんなご相談をいただきました。

「園長先生、青い滑り台（門の傍）で遊んでいる子ども達の様子が心配です。危ないことをしたり、命令したり、もめあったりしています。」とのこと。「それでは子ども達の様子をよく見てみましょう。危険なことがありましたら注意しますね。」とお話ししました。

さて、それから青い滑り台の様子を注意していました。ある日いました、いました！どうぶつ組の女の子10人ほどが青い滑り台に集まっています。これはお母さんもこの光景を目の当たりにしてさぞ、驚かれたことでしょう。心配されたこともよくわかりました。私も思わず「うーん」とうなってしまうました。

壮观です。階段の外側から登ったり、滑り台の外側、内側を登って支柱から滑り降りてきます。

もう滑るだけ（はな組さんは卒業したのですね）では飽き足らず、自分たちの今の能力に合った遊びを思いついて、考え出してチャレンジしています。しかも群れをなして熱中しているのです。このように動くためには“～しよう！”と呼びかける子どもの存在と“よșきた！”と応じてくれる子ども達の存在が必要になります。子どもが自発的に競い合ってやることによって身体能力はぐんと上がります。この4才児の姿は年齢発達からしてもしごく真つ当なものです。従来は男の子が先ず始めたものでしたが、今年のどうぶつ組の女の子、強し。

感心してばかりもいられませんので、子ども達と①滑り台におもちゃを持ち込まないこと②自分の手元、足元に注意する、この二点を約束しました。

門番の先生はこうした遊びを禁止しなくていいけれども、している時には安全管理に気を配っていることにしました。

園長としましては子ども達が存分に遊べるような園庭づくりの長期計画を立てていこうと考えています。（木がもう少ししっかり育ってきたらロープを張り巡らせたい、ツリーハウスを作ってあげたい、築山も、井戸も、と構想は膨らむ一方です）

保護者の皆様ばかりでなく幼稚園の現場にいる教職員、私たちが子ども達の育つ姿には日々驚かされています。子どもの中では様々な力が育っています。コップに注ぐ水が容量を超えてこぼれだすように、ある時ふいにその力があらわれてくるのです。

ぐんぐん育つ子ども達。育ちゆく子ども達の支柱となるのが幼稚園。家庭は子ども達の土壌です。

いよいよ夏休みが始まります。どうぞご家族で夏ならではの体験をなさってください。

